

2005年 事業計画書案

1. 事業実施の方針

アジアで社会的に弱い立場の人々、特に経済的に貧しい子ども達や家族に対して、生活向上・教育・福祉・医療に関する支援活動をおこなう。また、こういった人々の自立支援を進めると同時に、アジアの人たちとの相互理解を促進するために、今年以下に以下の点に留意して事業活動を展開する。

- 1) フィリピンの、社会的に弱い立場にある人、人間として最低限の生活を維持するための収入を得られない人々、就学の機会が与えられない子どもたちを優先的に支援する。
- 2) 1)を対象に、彼らの自立や健康の維持に直結する支援活動をおこなう。
- 3) 1)を対象に、彼らが地域の中で自尊心を持って周囲にかかわっていけるよう、コミュニティとのネットワークを育成する支援活動をおこなう。
- 4) 日本の子ども達や一般の人々と、1)～3)にかかわる諸問題を共有し、同じ時代を生きるもの同士、国境を越えてお互いを尊重し、共生できる社会の実現を目指すために行動するきっかけを提供する。

2. 事務局の運営

(1) 日本事務局

1) 実施内容

経済的に厳しい生活環境にあるフィリピンの人たちや子どもたちの自立支援と課題の共有のため、国内外のプロジェクト全般に関する活動を行う。実施内容は下記の通り。

- 1、フィリピンや日本の活動全般に関わる事業管理、事務作業、経理作業、報告等
- 2、会員、協力者、一般からの問い合わせや対応
- 3、ボランティアコーディネーターと訪問者への対応
- 4、スタディツアーの実施
- 5、会報の発行

6、インターン・研修生等の受け入れと研修

*今年度は事業管理、事務作業、報告等は各事業毎のチームでの活動を基本とする。

また、会員・協力者が主体的に活動に関わる機会やしくみづくりに力を入れ、ボランティアが主体的に活動するための場や機会を積極的に提供して行く。これらを通じて、法人の活動の基礎的な体力をつけていくことを図る。

- 2) 実施予定場所 日本事務局(NPOプラザなごや)
- 3) 実施形態 日本人専従スタッフ、理事5名、事務局ボランティア、各事業別ボランティア、会計アルバイト・ボランティア、翻訳ボランティア、イベントボランティアが協力して実施

4) 支出見込み額

| | | | | | | | |
|-----------|------------|-------------------|-------------|---------|-----------|------|-----------|
| 人件費 | 2,094,200円 | (日本人専従スタッフ60% | 1,339,200円、 | 会計アルバイト | 600,000円、 | 賞与 | 155,000円) |
| 旅費交通費 | 200,000円 | 渡航費 | 210,000円 | 賃借料 | 240,000円 | 水光熱費 | 80,000円 |
| 通信費 | 500,000円 | 事務費 | 240,000円 | 福利厚生費 | 174,800円 | | |
| 合計 | | 3,739,000円 | | | | | |

(2) マニラ事務局

1) 実施内容

現地法人を運営し、パヤタス・サンイシロのプロジェクト全般に関することをおこなう。実施内容は下記のとおり

- 1、プログラムの実施、評価とモニタリング
- 2、活動全般にかかわる事務作業、経理作業、報告の作成
- 3、スタディツアー受入・訪問者への対応
- 4、フェアトレードの販売促進、在庫管理
- 5、インターン・研修生等の受入と研修

今年は、より質の高いプログラムの実施と団体運営能力と日本事務局とのコミュニケーションの向上に力点を置く。このため、活動に関わる理事・スタッフ・ボランティア・インターンのコミュニケーションを促進し、チームワークを高める。また、地域や住民に密着した環境での支援活動という特徴を活用し、将来国際協力に関わる希望を持つ人材の育成にも貢献する。これらを通じて、現地法人の活動の更なる充実・発展を図る。

- 2) 実施場所 ICANマニラ事務所(ケソン市)、パヤタス、サンイシロ他

| | | | | |
|-----------|---------------------------------------------------------------|------------------------------------------|---------------------|---------------|
| 3)実施形態 | 日本人専従スタッフ1名、フィリピン人スタッフ2名(会計、コーディネーター)、ボランティア5名、インターン3名が協力して実施 | | | |
| 4)支出見込み額 | | | | |
| 人件費 | 740,000 円 | (日本人専従スタッフ 50% 630,000 円、会計担当 110,000 円) | | |
| 賃借料 | 264,000 円 | 水光熱費 13,200 円 | 通信費 52,800 円 | 事務費 105,600 円 |
| 研修費 | 44,000 円 | 旅費交通費 60,000 円 | その他(社会保険) 138,750 円 | |
| 合計 | 1,418,350 円 | | | |

3 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

ミンダナオにおける支援活動

ミンダナオ島の南部にあるジェネラルサントス市は人口41万人、世帯数86千、 バランガイ(行政単位)数26の地方都市である。市全体を平均した収入は多い(インカムクラス 1)が、貧富の差が激しい。反政府武装勢力の影響を受ける地区にあり、情勢は不安定で、世帯の約半数が貧困層だと言われている。

貧困世帯では、一般に子沢山で、子どもが働くことで何とか生計を維持している。仕事は漁業・農業・肉体労働など低賃金の期間労働が多く、収入は不安定である。子ども達が十分な教育を受けないまま成人し、次の世代は更に貧困になるという悪循環にある。

同市において、貧困や民族や宗教を理由に社会から阻害されている家庭の子ども達を対象に、正当な教育を受けられるよう、里親(通学)支援と給食支援、大学進学支援の三つの支援事業を行う。

2005年特記事項

- * 里親については、会員獲得が困難になってきた現状(2004年は148人程度にとどまり、12人会員の不足)から、奨学生の拡大を今年は見送る見込みです。
8人卒業ですので152人を支援し、ドロップアウトした児童が出た場合は、その数だけ里子を減少させる予定です。
- * 給食については、現在支援対象の学校を機械的に継続ではなく、給食支援を希望する学校を公募し、選考をおこないます。最大対象人数は3校、300名を予定しています。
- * 次世代支援については、プログラム名を大学進学・職業訓練支援プログラムと改称する。なお、大学進学支援は36000円の会費、職業訓練支援は18000円の会費で、子どもがどちらの支援対象になるかで、会費の額・現地で支出額も変化します。(予算は最大額で計上しました)
高校を新規に卒業する者を対象とします。また、支援対象者には誓約書の提出を求めます。
- * 大学進学・職業訓練支援プログラムのみ、運営費分が10%、事業費分が90%になります。
- * 現地日本人ボランティア、フィリピン人コーディネーターの人件費・渡航費も計上してあります。
また、現地団体Love&Life.Incに対する監査を実施予定です。関連予算を計上してあります。
- * 昨年より行われているコミュニティミーティングでの自立支援のための住民の活動(*)や、監査の可能性を考慮し、予備費として里親30万円、給食10万円を計上します。

A) 里親事業(通学支援事業)

1) 事業内容

経済的な理由から学校に通えない子ども達を里子とし、彼らの就学を金銭面・精神面で支援する里親を日本で募集、1対1での子どもの就学支援に参加してもらう。支援活動は、現地福祉法人Love&Life.inc(以下、L&L)に委託しておこなう。委託した事業の会計状況や執行状況に対する監査もおこなう。里子には、学費・学用品費・制服代等の通学支援や、医療支援、家庭・学業に関する悩みの聞き取り等を行う。子どもの家族に対しても、ソーシャルワーカーや事務員による家庭訪問やコミュニティでのミーティング等を通じて、家族からの相談に対応し、衛生や栄養改善を目的とする生活指導をおこなう。現地日本人ボランティアおよびフィリピン人コーディネーターは、L&Lに対して、スタッフの勤務状況や事業の状況をモニターし、必要に応じて報告の提出等を促す。

2) 実施予定日時 通年

3) 実施予定場所 フィリピン国南コタバト州ジェネラルサントス市およびその周辺

4) 実施形態 現地福祉法人 Love and Life Inc.に事業委託して実施。

5) 受益対象者の範囲及び予定人数 貧困家庭の子ども152名とその家族。

6) 収入及び支出見込み額

【収入】

里親会費(事業費分) 2,188,800円 (¥18,000 × 152名 × 80%)

合計 2,188,800円

【支出】

L&Lへの委託費 1,941,720円

(内訳)子ども達への支援費 1,065,900円 (学費・学用品・制服代・医療費等 484,500PHP × 2.2)

特に厳しい家庭への重点支援 67,100円 (30,500PHP × 2.2)

生活指導ミーティング 100,320円 (45,600PHP × 2.2)

L & L人件費(含、研修費、社会保険) 486,200円 (22.1万PHP × 2.2)

L & L運営費(含、賃借料、備品) 222,200円 (10.1万PHP × 2.2)

自立支援プログラム準備費* 388,000円

(現地日本人ボランティア滞在費、フィリピン人コーディネータ人件費、プログラム試行費用、フィリピン国内渡航費を含む)

予備費: 300,000円

合計 2,629,720円 (不足額 440,920円は、里親基金より支出見込み)

B) 大学進学と職業訓練支援プログラム

1) 事業内容

里親プログラムによる支援を、地域に還元するため、高校を卒業した奨学生に大学または職業訓練施設で、専門的知識や技術を身につけてもらう。大学進学者は、在学中は、小学校・高校の奨学生の補習指導や悩み相談に携わり、地域児童の学力向上に寄与し、L&Lを通じて補習指導等の報告を提出する。本プログラムの修了生は、プログラムの修了後3年間はジェネラルサントス市にとどまり、住民の生活向上と地域の発展のために活動することを求める。

2) 実施予定日時 通年

3) 実施予定場所 フィリピン国南コタバト州ジェネラルサントス市およびその周辺

4) 実施形態 現地福祉法人 Love and Life Inc.(以下、L&L)に事業委託して実施。

5) 受益対象者の範囲及び予定人数 貧困家庭の子ども11名とその家族。

6) 収入および支出見込み額

【収入】

大学 & 職業会費(事業費分) 356,400円 (¥36,000 × 11名 × 90%)

合計 356,400円

【支出】

L&Lへの委託費 290,400円 (学費: 11名 × 12000PHP = 132,000PHP × 2.2)

予備費 24,200円

合計 314,600円

C) 給食事業

1) 事業内容

現地の小学校で、栄養状態のよくない子ども達に栄養価の高い給食を提供し、栄養状態や健康面の改善を図ると共に、就学の意欲を高め、就学率の向上にも役立てる。ニーズの高い学校を支援対象とするため、対象校については公募をおこない、選考する。

2) 実施予定日時 通年(週1回の実施)

3) 実施予定場所 フィリピン国南コタバト州ジェネラルサントス市内の小学校(最大3校を、公募・選考を経て決定する)

4) 実施形態 各小学校に事業委託して実施。校長を始め教師が、児童およびその親と協力して、調理、給仕、事業管理を行う。現地日本人ボランティアおよびフィリピン人コーディネーターは、給食の実施状況や学校周辺のコミュニティの状況等をモニターし、必要に応じて報告の提出等を促す。また、学校近辺の環境の調査をおこなう。

5) 従業者の予定人数 各校とも、教師10名程。現地日本人ボランティア1名、フィリピン人スタッフ1名。

6) 受益対象者の範囲及び予定人数 フィリピンの公的機関の評価基準により、子どもたちの健康状態を体重・身長から、「Below Normal(栄養不良)」、「Normal(正常)」の2段階評価し、この内、栄養不良児を給食受益対象者とす。予定人数は、最大3校、各校100名まで。

7) 収入および支出見込み額

【収入】

給食会費(事業費分) 144,000円 (¥6,000 × 30名 × 80%)

給食寄付金(事業費分) 100,000円 (¥125,000 × 80%)

合計 244,000円

[支出]

| | | |
|-----------------------------------------------------------|-----------------|------------------------------------|
| 各校への事業委託費 | 237,600円 | (79,200円(一校100名分)×3校) |
| (内訳) 食料費 | 61,600円 | (28,000PHP×2.2) |
| 光熱費 | 8,800円 | (4,000PHP×2.2) |
| 報告代 | 6,600円 | (3,000PHP×2.2) |
| 予備費 | 2,200円 | (1,000PHP×2.2) |
| 自立支援プログラム準備費 | 261,880円 | |
| (現地日本人ボランティア滞在費、フィリピン人コーディネータ人件費、プログラム試行費用、フィリピン国内渡航費を含む) | | |
| 予備費: | 100,000円 | |
| 合計 | 599,480円 | (不足額 355,480円は、給食基金より支出見込み) |

パヤタスごみ処分場周辺での支援活動

マニラ首都圏ケソン市郊外のパヤタスには、ケソン市のゴミが集積し巨大なゴミの山と化した処分場がある。居住地域には、分別されないまま野積みされたゴミの山から発生した自然発火による煙や有毒ガスが立ち込め、有害な物質を含むどす黒い水が流れている。非常に劣悪な環境である。ゴミ山周辺にはおよそ1万人が生活し、およそ二千人がごみの山でリサイクルできるものを回収し、近くの廃品回収業者で換金することで生計を立てている。中でも、ゴミ山に隣接するルパン・パガゴ第2地区の住民は、経済的に非常に困窮した生活をしている。

そこで、ルパン・パガゴ第2地区周辺の住民を対象に、医療・栄養面を改善する医療支援と、ごみの山で働くこと以外の生計の手段となる技術や副収入を得られる技術を普及させ住民の収入向上を目指す職業訓練、訓練で得た技術を実際に収入につなげるよう支援するフェアトレード支援事業をおこなう。

2005年特記事項

- * 医療支援事業においては、昨年コミュニティヘルスワーカーの研修を終えた地域住民のうち、現在6名の女性たちがコミュニティヘルスボランティア(CommunityHealthVolunteer:CHV)としてICANの医療プログラムに従事しています。無料診療、栄養改善、保健教室等では、このCHVたちが一部を任されています。
- * 職業訓練支援事業では、アイキャンの運営する作業所で働く女性たちによって住民グループが結成されました。グループの名称は **Sikap Pangkabuhayan ng mga Nanay sa Payatas**(パヤタスの生計向上のためにがんばる母親達:SPNP)です。SPNPのメンバーはこれまでの裁縫、手工芸品製作の職業訓練の他にも、他NGO団体と一緒に食品づくりの職業訓練の教室も行っています。
- * SPNP は今年から独立した一団体となります。そのため、今までは、商品をオーダーし、材料代を前払いし、労賃を出来高制で女性に支払い、在庫の保管なども作業所で行っていましたが、今後は、アイキャンが購入したいものをオーダーし、その代金を商品と引き換えに支払うというシステムに変更になります。

D)医療支援事業

1)事業内容

パヤタスごみ処分場周辺で経済的に貧しい地域住民の健康を高めるために、地域の医療の核となるコミュニティーケアセンターを中心に、以下の活動を行う。

-) 無料診療...週2回、医師による診察。看護師、CHVによる補助。
-) 予防接種...看護師・コミュニティヘルスボランティア(CHV)がケアセンター内または地域を巡回して、予防接種を行う。
-) 保健教室...無料診療に来る患者や地域住民を対象にした保健教室の開催。5名のCHVが交代で講師をつとめる。
-) 外部診療...他の医療機関での診療が必要な患者に対する交通費と検査費等を補助する。
-) 栄養改善...給食プログラム:週に5回、栄養補給のための給食提供。栄養不良児とその母親を対象とする。
母親学級:栄養や健康についての講座を開催する。給食プログラムに参加する母親や、地域住民対象。
-) 女性の健康...地域での女性の健康状態改善のための講座の開催。各プログラムに参加する女性や地域内の女性対象。
-) 衛生プログラム...便器の配布や、衛生改善のパンフレット等を配布。
-) CHVの研修...地域医療活動に関する研修。
-) 外部団体との連携...パヤタス地区で活動する他のNGO、行政機関、住民組織とのネットワークづくり。
-) 青少年活動...毎週土曜日に子どもたち(小学生、高校生)を対象にグループ活動を行う。
歌や踊りや折り紙やお絵かきやゲームなどの活動を行う。また、年に2、3回遠足を行い、普段パヤタスから外に出る機会の少ない子どもたちに、異なった環境を体験できるような機会を与える。

2)実施予定日時 通年

3)実施予定場所 ケソン市パヤタス、ルパン・パンガゴ第2地区

- 4) 実施形態 日本人専従スタッフ1名、フィリピン人スタッフ2名(看護師、コーディネーター)、非常勤医師2名、コミュニティヘルスボランティア(CHV)6名、日本人インターンまたはボランティア計2名
- 5) 受益対象者の範囲及び人数 ケソン市パヤタス、ルパン・パガゴ第2地区の住民およそ800世帯(人口約4000人)

E) 職業訓練支援事業

1) 事業内容

パヤタスごみ処分場周辺の住民を対象に、ごみ処分場で働くこと以外の手段で経済的自立を目指し、収入向上につながるような職業訓練を行う。その際、既に技術を得た女性たちで結成された住民グループ(SPNP)のメンバーが講師となり、講座を開催する。また、住民グループ(SPNP)が今後自主的に組織を運営していかれるように、製作技術の向上の研修の他、マネジメントの研修などもおこなっていく。

プログラムは以下の通り。

) 職業訓練...副収入につながる技術訓練を行う。地域住民を対象、SPNPメンバーが講師をつとめる。

) SPNPメンバーの研修...製品の製作技術向上のための研修のほか、マーケティング、組織運営能力向上のための研修を行う。

2) 実施予定日時 通年

3) 実施予定場所 ケソン市パヤタス、ルパン・パガゴ第2地区

4) 実施形態 日本人専従スタッフ1名、フィリピン人スタッフ1名(ソーシャルワーカー)、住民グループ(SPNP)13名、日本人インターンまたはボランティア計2名

5) 受益対象者の範囲及び人数 ケソン市パヤタス、ルパン・パガゴ第2地区の住民およそ250人

< 収入および支出見込み額 (医療支援事業、職業訓練支援事業) >

【収入】

| | | |
|--------------|------------|---------------------------------|
| 医療会費 | 120,000円 | (6,000円 × 25口 × 80%) |
| 職業訓練会費 | 120,000円 | (6,000円 × 25口 × 80%) |
| パヤタス寄付金 | 640,000円 | (800,000円 × 80%) |
| JICA草の根技術支援 | 1,200,000円 | * パヤタス事業費分のみ計上(全体では220万円) |
| 外務省日本NGO支援無償 | 1,100,000円 | * 申請予定: パヤタス事業費分のみ計上(全体では225万円) |

合計 3,180,000円

【支出】

パヤタスでの事業共通の費用

1,684,000円

| | | |
|----------------|----------|--------------------|
| (内訳) 日本人専従スタッフ | 450,000円 | (15万円 × 3ヶ月) |
| 日本人専従スタッフ | 630,000円 | (14万円 × 50% × 9ヶ月) |
| プロジェクトコーディネーター | 429,000円 | |
| その他(社会保険) | 175,000円 | |

医療支援事業費

1,068,760円

| | | | | | |
|---------------|----------|-----------|---------|---------|----------|
| (内訳) 人件費(看護師) | 371,800円 | ケアセンター賃借料 | 55,440円 | 非常勤医師謝礼 | 220,000円 |
| 無料診療 | 55,000円 | ワクチン | 66,000円 | その他医薬品 | 22,000円 |
| CHV研修 | 22,000円 | CHV謝礼金 | 68,640円 | 外部診療補助 | 22,000円 |
| 栄養改善給食費 | 114,400円 | 粉ミルク代 | 26,400円 | 予備費 | 25,080円 |

青少年活動費

35,640円

| | | | | | |
|--------------|---------|------|---------|---------|---------|
| (内訳) 教材、道具費等 | 11,000円 | スナック | 11,440円 | 交通費(遠足) | 13,200円 |
|--------------|---------|------|---------|---------|---------|

職業訓練事業費

391,600円

| | | | |
|---------------------|----------|-------|---------|
| (内訳) 人件費(ソーシャルワーカー) | 343,200円 | 研修費 | 22,000円 |
| 材料費 | 15,840円 | 支給用米代 | 10,560円 |

合計 3,180,000円

F) フェアトレード支援事業

ゴミ山のそばに暮らす女性たちの社会的経済的自立を支援する作業所で製作したフェアトレード製品を、マニラや日本において、バザー・通信販売・委託を通して、販売する。

< マニラ >

1) 実施内容

SPNPがパヤタスの作業所で製品を製作し、マニラで販売する機会を得られるように支援する。製作者自身が販売することで、

販売技術や顧客対応を学び、良く売れる製品作りに必要な情報を得る。フェアトレード製品の売上金の一部は、住民グループに現金収入として還元されると共に、作業所の運営費などになる。他のNGOが製作したフェアトレード製品についても、販売をおこなう。将来は、フェアトレードの収益で、医療事業や職業訓練事業に必要な経費を捻出できることを目指す。

2) 実施予定日時 通年

3) 実施予定場所 ケソン市パヤタス、ルパン・パガゴ第2地区の作業所、マニラのイベントや学園祭や地域のバザー、インターネットによる通信販売、店舗等への委託販売など。

4) 実施形態 日本人専従スタッフ1名、日本人インターンまたはボランティア計6名、住民グループ(SPNP)13名、店舗、地域住民、イベント実施者等と協力して実施する。

< 日本 >

1) 実施内容

フィリピンで製作された商品を地域や国際協力関連のイベント・バザー、高校・大学の文化祭、通信販売、委託等を通して、販売する。また、他のNGO団体のフェアトレード製品を仕入れ、上記の方法により販売する。

物の販売や購入を通して、作業所の女性たちの経済的な自立を支援すると同時に、フィリピンやアジアの人たちの実情の理解を促進し、身近な消費活動を通してできるフェアトレードの意義についても理解を深めてもらう。

2) 実施予定日時 通年

3) 実施予定場所 日本のイベントや学園祭でのバザー、インターネットによる通信販売、店舗等への委託など。

4) 実施形態 専従スタッフ1名、ボランティア15名、インターン1名、店舗、イベント実施者等と協力して実施する。

5) 収入見込みおよび支出見込み

【収入】

| | |
|-----------|-------------------|
| フェアトレ売上 | 1,600,000円 |
| 合計 | 1,600,000円 |

【支出】

| | | |
|-----------|-------------------|--------------------|
| 作業所への支払い | 1,000,000円 | |
| 人件費 | 334,800円 | (日本人専従スタッフ人件費 15%) |
| 通信費 | 100,000円 | |
| 事務費 | 80,000円 | |
| その他(社会保険) | 41,850円 | |
| 合計 | 1,556,650円 | |

山村サンイシロでの支援活動

リサール州アンティポロ市のサンイシロ(面積6千5百ヘクタール)は人口(約5000人)の半数を先住民(レモンタドス、ドゥマガット族)が占める山村である。電気や水道などの社会基盤整備のない村で、住民は米や野菜を作って生計を立てている。しかしながら、米などの収穫は一家を支えるのに十分ではなく、また、日用品の購入のために現金収入が必要になってくる。村では植樹や有機農法などを学び、生計向上につながる技術を得たいという要望が出されている。

また村には病院がなく、住民は病気になるとジブニ - で2時間ほどかかる町の病院まで行かなければならないなど、様々な問題を抱えている。住民のニーズを把握し、ニーズにあったプログラムやサービスを提供していかれるように、ソーシャルワーカーや看護師が定期的に現地を訪問し、ニーズを調査する。先住民が自分たちの手で生活を向上させていこう、教育、生計向上のための支援を行う。

G) 山村教育支援事業

1) 事業内容

リサール州アンティポロ市の山村サンイシロに定住した先住民(レモンタドス、ドゥマガット族)の支援活動を行う。以下の活動を予定している。

-) 先住民の子どもたち(高校生15名、大学生1名)に対する就学支援
-) 家庭単位で果樹や材木になる樹木などを植える植樹事業(10家族)
-) 地域に有機農法が普及するような研修の実施
-) 住民に対する、健康相談や保健セミナー開催
-) 村人と日本人の交流のためのスタディーツアーの受け入れ

2) 実施予定日時 通年

3) 実施予定場所 リサール州アンティポロ市バランガイ・サンホセ、シティオ・サンイシロ

4) 実施形態 住民組織MASAKAを通じて支援する

* MASAKAはサンイシロ周辺に住む少数民族(レモンタドス、ドゥマガット族)を主体とした住民組織。

1998年に活動を開始した。90世帯が加盟。1999年より、当法人と定期的な会合を持つ。

5) 受益対象者の範囲及び人数 サンイシロ在住の先住民を中心に50家族。

6) 収入見込みおよび支出見込み

【収入】

| | | |
|---------|----------|----------------------|
| 山村教育会費 | 120,000円 | (6,000円 × 25名 × 80%) |
| 山村教育寄付金 | 20,000円 | (25,000円 × 80%) |

合計 140,000円

【支出】

| | | |
|--------------|---------|------------------------------------------------------|
| 高校生への奨学金 | 66,000円 | (2000PHP × 15名 = 3,000PHP × 2.2) |
| 大学生への奨学金 | 37,400円 | (授業料5,000+学用品2,000+下宿代10,000 × 1名 = 17,000PHP × 2.2) |
| ブレスクール | 2,200円 | (学用品等1,000PHP × 2.2) |
| 果樹木植樹 | 6,600円 | (苗木300PHP × 10家族 = 3,000PHP × 2.2) |
| 農業研修等 | 4,400円 | (交通費2,000PHP × 2.2) |
| 交通費・スタッフ人件費等 | 39,600円 | (18,000PHP × 2.2) |

合計 156,200円 (不足額16,200円は、サンイシロ基金より支出見込み)

相互理解を促進する活動

主に日本国内において、フィリピンでの国際協力活動への支援を呼びかけると同時に、アジアや世界と日本のつながり、貧困問題の現状や構造を理解するため、またこれら諸問題の解決策をひとりひとりが考えるための、国際理解教育事業を行う。また直接フィリピンを訪れるスタディツアーを実施し、現地の人々と交流し、生活を体験することで、日本とフィリピンで暮らす人々の思いを共にし、特に日本でも必要とされる国際協力活動を考える。

今後は日本で国際理解教育に携わる人材を対象にした、フィリピンを訪問する研修ツアーも行う予定である。

2005年特記事項

* 本年度は国際理解教育の自主企画を計画しております。具体的には、以下の企画案が挙げられています。

- 1、オリジナル教材を使った連続ワークショップの実施 (国際問題の構造を理解すると同時に参加型ワークショップの手法を学ぶ。)
- 2、フィリピン海外研修 (フィリピンの国際協力活動の現場を訪問し、国際問題を自分の目で見て考える。)
- 3、国際理解教育オリジナル教材づくり (海外研修参加メンバーでオリジナル教材を作成する。)
- 4、国際理解教育講座の実施 (上記1, 2の企画に参加したメンバーで講座を開催する。)
- 5、教材のパッケージ化(助成金取得できた場合) 題名(仮):「フィリピンの暮らしから見える世界の問題」

H) 国際理解教育事業

1) 事業内容

フィリピンやアジアで経済的に厳しい環境にある人々の生活、児童労働の実状、南北格差や貧困の現状などの諸問題について、多くの人と共有し理解を深めるために、学生、一般市民、団体を対象に以下の活動を行う。

*特に今年はボランティアグループが中心になって事業を実施していけるような体制を構築する。

具体的にはボランティアが訪問者に対応したりや講座を企画運営することなどを予定している。

-) 学校での授業、イベントでのワークショップ・講座実施
-) 自主企画(国際理解教育講座、ワークショップ等)の開催 *上記、特記事項を参照
-) 国際理解教育に関心のある人(教員、NGO職員、一般市民など)を対象にしたフィリピン現地訪問ツアー
-) 事務局への訪問者受け入れ
-) フィリピンの子どもたちと日本の子どもたちの交流促進 (カードキャンペーン、文具キャンペーン等)
-) 教材貸出(児童労働ビデオ、写真展用写真、オリジナル教材等)
-) 国際理解教育に関わる人材の育成、教材作成のアドバイス等

2) 実施時期 通年

3) 実施予定場所 日本事務局(NPOプラザなごや)、学校、名古屋国際センター、愛知県国際交流協会、JICA中部等

4) 実施形態 日本人専従スタッフ1名、アルバイトスタッフ1名、インターン1名、現地スタッフ3名、ボランティア10名が学校やイベント主催者等と協力して行う。

5) 受益者の範囲及び予定人数 会員および一般市民 約200名、日本およびフィリピンの子ども 約1000人

6) 収入および支出見込み額

【収入】

| | | |
|------------|----------|-----------------|
| 国際理解教育事業収入 | 400,000円 | |
| 海外研修収入 | 400,000円 | |
| カード送付寄付 | 48,000円 | (60,000円 × 80%) |

| | | |
|-----------|-------------------|-------------------------------------------------------------------------|
| 物資寄付金 | 72,000円 | (90,000円 × 80%) |
| 国際理解寄付金 | 80,000円 | (100,000円 × 80%) |
| 助成金収入 | 2,000,000円 | (JICS 100万円は確定：日本財団100万円を申請中。) |
| 合計 | 3,000,000円 | |
| 【支出】 | | |
| 国際理解教育事業費 | 675,000円 | |
| 人件費 | 1,886,400円 | (日本人専従スタッフ人件費15% 334,800円、アルバイトスタッフ人件費 1,200,000円、マニラインターン滞在費 240,000円) |
| 旅費交通費 | 232,000円 | (講師旅費12,000円、アルバイトスタッフ交通費60,000円、ボランティア交通費60,000円、渡航費100,000円) |
| カード物資支出 | 100,000円 | |
| その他(社会保険) | 191,850円 | |
| 合計 | 2,993,650円 | |

J)スタディツアー事業

1)事業内容

フィリピンで行われている自立支援事業を見学し、国際協力活動について学ぶとともに、国内においても国際理解教育事業と連携し、より学びを深めるスタディツアーを行う。

支援活動の視察のほかにも、ホームステイや住民や子どもたちとの交流会等を通じて、日本とフィリピンの文化交流を深める。

2)実施予定日時 年2回を予定。

3)実施予定場所 マニラ首都圏、リサール州、日本事務局(NPOプラザなごや)

4)実施形態 当法人が企画、旅行代理店に委託して実施する。

5)従事者の予定人数 有給スタッフ1名、現地スタッフ3名、インターン1名

6)受益対象者の範囲および予定人数 会員および一般市民 約20名

7)収入および支出見込み額

【収入】

ツアー参加費 600,000円 (4万円 × 15名=800,000円)

合計 600,000円

【支出】

スタディツアー事業費 285,000円 (交通費110,000円、食費90,000円、宿泊費45,000円、雑費30,000円、謝金10,000円)

人件費 223,200円 (日本人専従スタッフ人件費 10%)

その他(社会保険) 27,900円

合計 536,100円

(2)収益事業

A)リサイクルバザー事業

1)事業内容 会員や一般市民から提供された不要品をフリーマーケット等で販売する。

2)実施予定日時 年に2回。

3)実施予定場所 フリーマーケットおよび東輪寺など、名古屋市内およびその周辺。

4)実施形態 ボランティアや会場提供者の協力を得て、実施。

5)従業者の予定人数 無償ボランティア10名。

6)収入および支出見込み額

【収入】

物品販売売上げ 200,000円

合計 200,000円

【支出】

フリーマーケット会場費 20,000円

合計 20,000円